

大腸癌肝転移の研究プロジェクト

<本プロジェクトの目的>

大腸癌肝転移の治療は全身化学療法の進歩とともに、近年大きく変わってきている。

そこで、このような肝転移の治療の大きな変化に伴い、最近の日本の肝転移の治療の実態がどのような状況になっているかを実態調査し、過去の時代と比べて、治療成績が著しく向上しているのか、比較検討する。さらにこの結果に基づいて、肝転移に対する新たな治療戦略を構築したいと考えている。

わが国には肝転移に対する全国的なデータベースはないため、本プロジェクトを通じて前向きなデータベースを作成し、今後の大腸癌肝転移の治療方針の決定に貢献できるようにしたい。

<活動報告>

1. データベース作成のための小委員会を結成した。
2. 日本肝胆膵外科学会と共有できる肝転移のデータベースを作成することを目的として平成21年11月20日に第1回の合同委員会を開催し、コンセンサスを得た。（詳細は別紙1参照）
3. 平成21年12月26日第2回委員会を行い、日本肝胆膵外科学会で作成されたデータベース案に修正と追加を加え、共通で使用できるデータベース案を作成した。（詳細は別紙2参照）

<今後の予定>

1. データベース案で、大腸癌研究会の各施設に2007年-2008年の2年間における肝転移の臨床データを集積する。
2. 比較のため、2005年以前の2年間程度（例：2000年-2001年）の肝転移についても臨床データを集積するかは、今後検討する。
3. 集積データを解析し、まず現時点での日本における大腸癌肝転移の治療成績を把握する。
4. prospective なデータ登録方法について検討する。

（文責：高橋慶一）